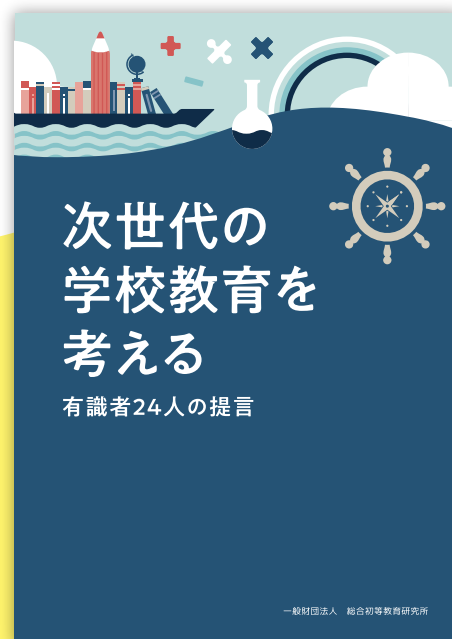


次世代の学校教育を考える

有識者 24 人の提言

★特別頒布価 2,000円(税込)
★B5判 116ページ 1色
【発行】
一般財団法人 総合初等教育研究所

- 未来を担う子供たちを育てるために
- 次期学習指導要領の論議が始まる今だからこそ



執筆者紹介(五十音順)

安彦 忠彦	辻村 哲夫
天笠 茂	鶴巻 景子
植村 洋司	中村 和弘
角屋 重樹	中村 典生
北 俊夫	名古屋恒彦
後藤 豊郎	葉倉 朋子
小林 幹夫	福田 俊彦
阪本 秀典	松川 禮子
清水 美憲	水川 和彦
杉田 洋	村川 雅弘
田中 博之	渡辺 敦司
月岡 正明	渡辺 秀貴

●ご注文は 株式会社文溪堂 特約代理店まで（一般書店では取り扱っておりません。）

【お問い合わせ】一般財団法人 総合初等教育研究所 | 058(398)6633 岐阜県羽島市江吉良町江中7-1

原稿募集

【わたしの学校経営／わたしの学級経営】

掲載イメージは本誌10ページ参照

本文：1000～1200字(タイトル含まず)
※学校や学級を紹介する写真を1枚添付してください。

【おすすめの本】

掲載イメージは本誌11ページ参照

本文：450字(書名／著者／出版社含まず)
※原稿と同時に本の表紙写真を添付してください。

●原稿は下記メールまで送信ください。

ご自身のお名前、住所、電話番号を必ず明記ください。
✉skk@sokyoken.or.jp

編集後記

○今回の特集「読書と読書感想文」はいかがでしたでしょうか。これを参考にいただき、当研究所主催の「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクールへたくさん応募していただけることを心待ちにしております。

○「小学校におけるICTの活用状況に関する調査」にご協力ください。

GIGAスクール構想が提起され、小学校では令和3(2021)年～令和4(2022)年にかけて一人一台端末が整備され、ICT教育が推進されています。本調査は、令和6(2024)年度のICT機器使用の現状と使用上の課題を把握し、今後の望ましいICT活用方法を見出すための基礎資料を得ることを目的として実施しております。右の二次元バーコードからアンケートフォームへアクセスしてください。(英)



教育時報 No. 135

企画・編集 一般財団法人 総合初等教育研究所

〒501-6297 岐阜県羽島市江吉良町江中7-1 Tel.058-398-6633
〒112-8635 東京都文京区大塚3-16-12 Tel.03-5976-1309
〒578-0903 大阪府東大阪市今米2-7-24 Tel.072-966-2111(代)

発行所 株式会社文溪堂

〒501-6297 岐阜県羽島市江吉良町江中7-1 Tel.058-398-1111(代)
〒112-8635 東京都文京区大塚3-16-12 Tel.03-5976-1311(代)
〒578-0903 大阪府東大阪市今米2-7-24 Tel.072-966-2111(代)

●コード 6-1575f 発行 2025.6

企画・編集：一般財団法人 総合初等教育研究所 発行：株式会社文溪堂

教育時報

No. 135
2025
夏・秋号



▲全校児童による田植え(三重県大紀町立七保小学校)

教育を思う

「裁量」を考える。

日本体育大学 教授 石田 有記

次期学習指導要領に向けた検討が中教審でスタートした。諮問文には「多様な(略)子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方」の検討が掲げられている。

教育課程の編成主体は学校であることを踏まえれば、その柔軟性の在り方の検討は、教育課程にかかる「学校裁量」の在り方の検討と同義である。日本の教育政策において「学校裁量」がテーマとなったのは1990年代の中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」である。教育分野における地方分権改革が議論される中で、学校の自主性・自律性の確立、開かれた学校づくりが謳われ、それを受け止める教育課程に係る学校裁量の幅の拡大を図る象徴的な存在として、学校が目標、内容を定める総合的な学習の時間が導入された。その後、現行学習指導要領は「社会に開かれた教育課程」というコンセ

プトを打ち出し、カリキュラム・マネジメントの推進を強調している。さらに次期学習指導要領で「教育課程の柔軟性を高める方策」が射程に収められていることを踏まえれば、一連の教育政策における継続的かつ重要なテーマとして、教育課程に係る「学校裁量」の在り方が位置付くと言えよう。

中教審の議論では「Agency」ownership」との言葉が多く出ている。「裁量」は「自分の判断に基づいて物事を処理すること」にある。この点に焦点化した議論は極めて重要である。そして「裁量」には英語ではdiscretion、「思慮深さ、慎重」という意もある。

次期学習指導要領において「学校裁量」をどのように位置付け、実りあるものとするか。思慮深い議論の展開が期待される。

Content

特集 読書と読書感想文 2

〈総論〉読書と読書感想文一書くことの意義と方法一 田中 宏幸
〈学校の取り組み〉聖徳大学附属小学校の「読書推進」と「読書感想文指導」について 三須 吉隆
〈エッセイ〉読書感想文とわたし 石井 睦美

学習指導最前線(社会科) 8

小倉 勝登

わたしの学校経営 10

田中 基之

おすすめの本 11

佐伯 睦司

●コード6-1575f 教育時報No.135

総論

読書と読書感想文 一書くことの意義と方法一



広島大学名誉教授
「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール中央審査委員長
田中宏幸

1 読書感想文指導の不振

読書感想文は本来、子供たちに「本を読む楽しさ」と「想いを文字にする楽しさ」を知ってもらうことを目指したものである。ところが、読書感想文は、子供たちからも教師からも敬遠されることが少なくない。ときには、読書嫌い・作文嫌いを産み出す元凶のように言われることさえある。

子供たちが読書感想文を嫌うのは何故か。「感想を書きたい本」が見つからない、「何のために、何を、どのように書くのか」がよく分からない、などが主な理由のようだ。

一方、教師が読書感想文の指導を避けたがるのは何故か。「事前指導の方法が明らかでない。長作文を読んで評価する負担が大きい。短期間では成果をあげにくい」などが主な理由だと思われる。

こうした不振要因を解消するにはどうすればよいのか。本稿では、「本との出会いをどのように作るか」という〈場の設定の問題〉と「読書感想文の書き方をどのように教えるか」という〈指導方法の問題〉の二つの側面から、具体的解決策を考えてみたい。

2 子供たちの読書状況

子供たちは本を読むのが嫌いなのだろうか。いや、決してそういうことはないだろう。「親と子の読書

活動等に関する調査」(平成16年度・図書館の情報拠点化に関する調査研究)によれば、本を読むことが「好き(46.5%)」、「どちらかというとき好き(39.1%)」という回答は全体の8割以上(85.6%)となっている。約20年前の調査結果であるが、時代が変わっても子供たちの「本を読むことが好きだ」という気持ちが失われているとは思えない。全国学校図書館協議会の「学校読書調査」(令和6年)においても、9割の小・中・高校生が「読書は大切だ」と答えているのである。

一方、「子供の読書活動推進に関する有識者会議論点まとめ」(令和4年12月)は、子供たちの読書量は増加しているが、不読率(1か月に本を1冊も読まない子供の割合)の改善には課題が残ると指摘している。平成13年度(2001)と比較すると、小学生の1か月間の平均読書冊数は6.2冊から13.2冊に増加し、中学生は2.1冊から4.7冊に増加したものの、令和4年度(2022)の不読率は、小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%であり、目標(小学生2%以下、中学生8%以下、高校生26%以下)に達していないというのである。また、本を読む時間が減少した一方で、漫画や雑誌を読む時間が増加したことが指摘されている。さらに、子供を取り巻く情報環境が大きく変化しており、今後いっそう読書離れが進むのではないかと懸念されている。

3 読書活動推進の手立て

こうした状況にあって、読書活動を推進して行くにはどうすればよいのか。目指すべき姿は、「子供が、好きな本を選択し、好きな時間に、好きな場所で、主体的に読書活動を行えるようにする」ことである。この理想形に近づくための手立てについて、選書・時間・場所・交流・記録の5観点から考えてみたい。

(1) 選書へのサポート(ガイダンス・レファランス)

「この本を読むように」と紹介したり、並行読書で教科書教材と関連する本を読ませたりすることも子供たちの力になることではあるが、自分で必要な本を選ぶことができるような力を養いたい。そのためにも、調べたくなるような話題や、ふだん親しみの少ない分野の書架に足を向けさせるような話題を提供して、本に関心を持たせたい。お薦め本のリーフレットの作成、読み聞かせやブックトークも積極的

に行きたい。「こども家庭庁」や「日本児童図書出版協会」等のWebサイトにアクセスして、「子どもたちに読んでほしい本」を検索させるのも、子供が読みたい本を見つけるきっかけとなる。

(2) 読書の時間と場所の確保

何よりも読書の機会を増やすことが大事である。テレビやスマホ等の電源を切り、静かな場所で読書が継続して行えるように環境を整えたい。全校一斉の読書活動(朝読)で読書習慣を身につけさせるのも効果がある。さらに家庭でも子供と一緒に読書を楽しむ時間(家読)を設けるように働きかけたい。

(3) 手を伸ばしたら本がある環境

広島県府中町立府中小学校では、校内7カ所に大小の特色ある図書コーナーを設置し、「手を伸ばしたら本がある環境」を作っている。子供司書の活動を促し、保護者をコーディネーターとして迎え、「心の居場所としての図書館」と「学習・情報センター」としての機能をもたせているのである。また、この図書コーナーを課題発見・解決学習の拠点として生かした授業実践も実施するなど、「学校まると図書館」という場を作ることによって読書活動を活発化し、不読率0%を達成するに至っている。

(4) 交流

読書会、ペア読書、ストーリーテリング、ブックトークなど、子供たちが面白かったところについて意見交換しあう場を作りたい。また、ゲーム感覚で行えるアニメーション、書評合戦(ビブリオバトル)などを楽しむことは、読む本の幅を広げたり、他者の異なる考えを知って改めて自分自身の考えを見つめ直したりすることに繋がっていく。

(5) 記録

各自の読書記録を残させたい。1日数行の「読書日記」でよい。「書名・著者・発行所・読んだページ数・ひと言感想」を記録しておくことで、自分の歩みを振り返ることができる。「読書貯金」や「読書マラソン」と名付けて数値目標を明確化すれば、意欲を喚起することになり、継続しやすい。

読書日記に慣れてきたら、月に数回は「読書ノート」を書かせたい。こちらには、「大意や要点・この本から学んだこと・疑問・感じたこと」も書き込むようにする。また、読書計画として「読みたい本」のリストを作成させるのも、読書意欲を高めるのに効

果がある。こうしたことの発展として、読書感想文を書かせるようにしたい。

4 読書感想文は何のために書くのか

子供たちから「読書感想文は何のために書くのですか」と問われたら、どう答えたらよいのだろうか。読書感想文を書く意義を改めて確認しておこう。

(1) 読書の魅力をいっそう深いものに

本は、私たちを異なる時代、文化、場所へと連れて行ってくれる。小説の世界に没頭したり、歴史書で過去の出来事を学んだり、科学書で未知の知識を得たりすることで、自分自身の視野を広げ、新たな世界を発見することができる。

その上で、読んだ後に感想文を書くことにすれば、その体験はもっと深く、もっと記憶に残るものになる。物語であれば、面白かったところ、感動した場面、分からなかったことなどを文章にすることで、頭の中が整理され、本の理解が深まる。作者が何を伝えたかったのか、登場人物はどんな気持ちだったのかをじっくり考える良い機会になる。

(2) かけがえのない成長の跡

私たちは、日常生活でも色々な出来事に接して色々と感じたり考えたりしている。しかし、どんなに強く感じたことでも、時の経過とともに薄れていき、やがて忘れてしまう。「今、ここで」感じていることは、書きとめておかなければ消えてしまう。

本を読んで感動したことも同じである。言葉にして書き残しておかなければ消えてしまう。小学生でなければ感じ取れなかったこと、十代の感性があればこそ受けとめられたことがあるはずである。書きとめておけば振り返ることもできる。感想文はかけがえのない自分の成長の足跡なのである。

(3) 読書感想文で育てられる力

育てられる力は、以下の6点に整理できる。

- ①読解力(文章の意図を深く読み解く力／登場人物の心情や作者の考えを推測する力／文章構造を理解し、要約する力)
- ②思考力(読んだ内容について自分の考えを深める力／自分の経験を結びつけ、新たな視点を得る力／読んだ内容を批判的に考え、意見をまとめる力)
- ③表現力(自分の考えを相手にわかりやすく伝える力／言葉を選んで、文章を構成する力／比喩や描

- 写などを使い、豊かな表現をする力)
- ④想像力・創造力(ストーリーの展開を想像したり、別の結末を考えたりする力／読んだ内容を基に、新しい物語を生み出す力)
- ⑤主体的に学ぶ力(積極的に本を選び、読書を楽しむ力／自分の考えを主体的に表現する力)
- ⑥豊かな人間性(自律しつつ他人と協調し、他者を思いやる心／感動する心／感性、倫理観、自立心、責任感、寛容さなど)
- 読書感想文を通して得られるこれらの力は、学校の勉強だけでなく、将来、大人になって社会に出た時にも必ず役に立つものとなる。文章を読んで理解する力、自分の考えをきちんと伝える力、そして色々なことを深く考える力は、どんな仕事をする上でも重要な力だからである。

5 読書感想文では何を書くのか

読書感想文では何を書くのか。この問いに「本を読んだ感想を自由に書けばよい」と答えたのでは、書くことを苦手とする子供は戸惑うばかりであろう。もっと焦点化して、具体的にアドバイスする必要がある。その方法として、ここでは三宅香帆(注)が勧める三つの手法を挙げておこう。

(1) 自分の変容を書く

三宅は、「読書感想文とは、『この本を読んで、私はこう変わりました』と言えればいいジャンルの作文」だと断言する。重要なのは、本を読んだ感想ではなく、この本を読んでどう成長したかという読書体験を書くことだというのである。

さらに選書にあたっては、「自分の嫌いなモノについて書いた本を選ぼう」と勧めている。本が苦手な子供は好きなジャンルの本を選びがちだが、それでは「この本が面白かった」で終わってしまう。嫌いなテーマを選べば、その本を読んで「嫌いだったモノが好きになった」という内容を、自分の体験も交えて容易に書けるようになるからである。異色の提案ではあるが、「自己の変容を書く」のには手軽で効果的な方法であると言えよう。

(2) 作品のテーマと構造を語る

課題図書が決まっている場合には、自己の変容体験を語ることにこだわらず、その本を自分なりにど

う読んだかを論じればよいと三宅は言う。「この本は〇〇とは何かを書いた話だ。それは〇〇と〇〇の対立(対比)によって描かれている」という構文を用いて、作品のテーマと構造について自分の考えを述べていくのである。この方法は、ロラン・バルトの「物語の構造分析」を踏まえたものである。「主人公が〇〇と出会って〇〇になる話」と一文要約して作品のプロットを捉えれば、あらすじをまとめることもでき、自分の解釈を述べやすくなるであろう。

(3) 語り方から作者の意図を探る

ノンフィクションの場合はどうするか。三宅は、「語り方に着目する」ことを勧めている。「ここは普通の本と語り方が違うな。面白いな」と思った点に注目し、「この本が〇〇という構成を取っているのは、〇〇というテーマを伝えたかったからだ」と詳しく書いていけばよいというのである。

確かに、これまでの「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクールの入選作にも「国語辞典の書き方の面白さ」について感想をまとめたものがあり、高く評価されたことがある。

「作品の構造や語り方に着目してテーマや意図に迫る」という方法は、高度な思考力を必要とするが、読書感想文は、「自分の変容や自己の体験を書くこと」ととどまらず、「本を読んで考えたことを自分の言葉で自由に書くことのできる場」だと受けとめて、是非挑戦してみたいものである。

6 読書感想文はどう書くか

(1) 文章構成モデル

具体的な書き方については、最近は、Webサイトで「読書感想文テンプレート」が紹介されるようになった。そこでは次のような構成例が挙げられている。

- ① この本を読むことになったきっかけ
- ② 本のあらすじ
- ③ 気になった箇所についての感想や体験談
- ④ 読む前と読んだ後の気持ちの変化
- ⑤ 今後に向けた抱負

この文章構成モデルには、読書感想文に書き込みたい要素が網羅されている。長文を書くことに慣れないうちは、この型に沿って書いていけばおのずか

らまとまった感想文ができあがることになる。作文が苦手な場合は、この型を利用するのも悪くない。

しかし、型にはめることが優先されて、誰が書いても同じようなありきたりの感想文になってしまう恐れがある。書き上げた達成感も希薄なものとなろう。型を活用しながらも、自分の感じたことや考えたことを大事にして、「自分の体験」を交えて、できるだけ具体的に述べるようにさせたい。また、文章の展開についても、「気になった箇所の引用」や「自分の変化」を先に述べることはできないかと工夫を凝らすように助言したい。

(2) 「題名」で読み手の興味を引きつける

作文を読む際、最初に目が行くのが題名である。題名が工夫されたものであれば、「どんな話だろう」「おもしろそうだな」と期待感を持つ。

「〇〇という本を読んで」という題ではなく、伝えたい内容を焦点化したり、文章中に使われている印象的な言葉を引用したりして、題名にするとよい。倒置法や体言止めや比喩法も使ってよい。題名が決まれば、書きたいことの中心も明確になってくる。

その際、題名と内容が一致していることが大切である。せっかくいい題名をつけても、内容と一致しない作文が時々ある。書き出す前に思いついた題は、あくまでも「仮の題」である。書き終えた後にもう一度「題」を見直すように指導したい。

(3) 「書き出し」と「結び」の工夫

①書き出しの工夫

読書感想文の場合は、ともすれば最後の方まで読み進めていかないと何をテーマに書いているのか分からない作文が多い。あらすじが長々と書き並べられ、やっと終わったかと思えば、「面白かったです」で終わってしまうことが少なくない。

文章構成に変化をつけるには、まず、書き出しをどうするかを考えていくとよい。書き出しと大きな流れが決まれば、筆が一気に進むようになる。「心に残った言葉の引用」や「いきなりテーマ紹介」といった書き出しは、伝えたいことの中心に直結するので、書くことの枠組み作りにも効果的である。

②結びの工夫

作文の審査会で、「この最後の文、惜しいですね」という会話が交わされることがある。要らない文が入っていたり、誰もが使うような陳腐な言葉で終

わっていたりしているのである。

大事なことは、「題名→書き出し→結び」がうまく繋がっていることである。例えば、次の作文例。

【題 名】 平和に向かうははじめの一步
 【書き出し】 「自分には何ができるのだろう」思わずそうつぶやいていた。
 【結 び】 「となりの人と手をつなぐこと」まずは、こんな一歩から踏み出してみたい。

【結び】の「こんな一歩」が、【題名】の「はじめの一步」と対応している。【書き出し】の「何ができるのだろう」という問いに対する答えにもなっている。これだけで、論の一貫した文章だと分かる。

(4) 推敲と添削と声かけ

書き終えたら、少し時間をおいて、第三者の目で読み直すことが大事である。誤字・脱字等の基本的な点検だけでなく、的確な言葉遣い・段落の繋がり・見出しの適切さ・考えの明確さなど、文章全体のまとまりをチェックすることも忘れてはならない。

適切な時期に添削や声かけをすることも子供たちの励みとなる。但し、赤ペンばかりだと自己を否定されたように感じる子供が生まれる恐れがある。

- ① 良いところを具体的に褒める。
- ② 一人の「読み手」としての受け止め方を伝える。
- ③ 改善点を見つけても、まず本人の思いを尋ねる。
- ④ 納得がいくまで書き直すことを促す。

こうした配慮が、子供たちを作文好きにして行くであろう。

7 読書活動の活性化を

読書感想文指導は読書指導そのものである。本を読んで感じたことや考えたことを、深く自分の内面と向き合い思索しながら、自分の持つ語彙力と表現力を使って自己表現する学習である。読書感想文に取り組むことで、本が好きになったり自分が変わったりできるようになってほしい。読書感想文が読書活動の活性化に生かされることを願ってやまない。

(注) 三宅香帆「もしプロの書評家为本気で読書感想文を書いたら」(東洋経済オンライン、2023年7月～9月、8回連載)

学校の取り組み

聖徳大学附属小学校の「読書推進」と「読書感想文指導」について

千葉県松戸市 聖徳大学附属小学校 校長
三 須 吉 隆

本校が読書推進において最も大切にしていることは、「子供たちが本を読むことが好きになること」です。まずはそのための環境を整えることからスタートいたしました。

毎日の学校生活は正に読書から始まります。子供たちは、様々な方面から登校時間内にそれぞれに登校いたします。登校した子供たちは、制服から校内着に着替えると、学習用具を整え着席します。本校は学校生活の始まりのこの時間を「読書タイム」としています。教室は落ち着いた空間となり、穏やかに心が整う時間が流れていきます。子供たちは、自分で選んだ好きな本に目を落とし、読書に没頭していきます。この「読書タイム」は、他の学習時間の中や学校生活の中で生まれる「隙間時間」でも活用されます。時間ができると、子供たちは自然と本を開き、読書を始めます。この、本がいつでも手元にある環境が、本が好きな子供たちの姿につながってまいります。

また、本校では低学年に「図書」の時間を授業として設定しております。この時間に新しい本の紹介があり、そして感想文の基礎指導が実践されます。

新しい本に出会い、その本をじっくり読むと、自分とは違う世界や自分では体験できないような世界、自分とは異なる考え方や生き方などとの思いもよらない素晴らしい出会いも生まれます。読むことで世界が広がり、考える力、想像力、感性も磨かれます。

そして読書後、感想文に取り組むときには、感想文を書きながら本に対する考えがより深まり、一読した時には気づかなかった異なる視点から見た考えが生まれることもあります。感想文を書くことで、その本を読んで得られる財産の価値は、何倍にも膨らむものです。

これからも読書を奨め、そこから感じたことや考えたことを言葉にし、文章にしたためることで、表現力を豊かに育めるよう、学びを継続してまいります。

また、本校には「読書感想文指導」とともに、力を注いでいる学習活動がございます。それは、学習の「振り返り」です。各学習・各行事等の終了後、学習全体・行事全体を、そして自分自身を振り返り文章化する実践です。この積み重ねによる文章力の向上は計り知れないものです。これらの「振り返り」からは、活動に対する、その学年ならではの捉え方、心の動き、学習・行事を通して子供たちの心と身体が成長している様子が伝わってまいります。

「振り返り」とは、「成果と課題」を意識してまとめていく学習実践です。学習・行事を通して「自分はこんなことができるようになった」「今までの自分だったら、きっとここまで頑張れなかった」のような成果、自分自身の向上的変容・成長や、仲間や上級生の頑張りに気づき影響を受けたことを、自ら振り返り自覚すること。また、「今回の取り組みはここが残念だった」「さらにこうすれば良かった」のような課題に気づくこと。「振り返り」は、やり遂げた自分に自信を持つことにつながり、次の学習に向けての意欲につながるものです。それぞれの学年の発達段階で、そして一人ひとりに、全く違う「振り返り」があります。正解は一つではありません。これからも様々な学習後、「振り返り」を重ね、子供たちの成長につなげてまいります。

そして、この「振り返り」の実践は、これまでと同様に、「読書感想文」に代表される、子供たちの文章力の向上の土台を築き上げていくことを確信しております。



▲「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール最優秀校表彰の様子

エッセイ

読書感想文とわたし



児童文学作家
「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール中央審査委員
石 井 睦 美

今はいくつかの選択肢から選べるということだけど、夏休みの宿題といってわたしが思い浮かべるのは、読書感想文だ。そのあとから、そういえば、自由研究もあったな、あとドリル形式の夏休み帳と、絵も描いたようなと、遠くに去ってしまった夏休みの宿題が芽づる式に出てくる。今より昔のほうが宿題の量は多かったのかもしれない。

あのころはまだ、真夏でも今みたいな過酷な気温というのが少なくて、暑い暑いけれど、一日中エアコンをつけることなんてなかった。だいいち低学年のころは、エアコンそのものがなかった。だから、「朝の涼いうちに宿題をしちゃいなさい」という母の言葉を朝ごはんのときに聞くたびに、そういうことを言う大人にはなるまいと思った。やることをやっしまえばあとは好きに時間を使えるでしょということだろうけど、あのときはいやだったな。

それでも夏休みはすばらしかった。学校に行くのをいやだと思ったことはないのに—正確に言えば一年に何度かはあったけど—、ずうっと休みが続くのはうれしい。だって、明日も明後日も本が読めるから。

本が読める、と思うわたしは、本が好き、本を読むのが好きな子供だったのだ。ただ、本ならどんな本でもいいかというとそうではなくて、断然、物語。物語ならどんな物語でも読めた。

つまりフィクションを好んだわけだけど、ノンフィクションでも偉人の伝記はずいぶん読んだ。フィクションは実際に起こったことではないし、実在の人物ではないけれど、物語のなかでみんな、ほんとうに生きて行動している。伝記は実在のひとの人生を描いていて、そこに物語があるのだと思う。

夏の長い午後、ひとりっこだったわたしは、だれにもじゃまされずに本を読んだ。読みはじめのときはたしかにいる自分というものが、次第になくなっていく感覚、そして本を閉じると、また自分が戻ってくる感覚も魔法のようだと思っていた。

物語を読んでいるあいだは、ここではない場所に行って、このあいだまで知らなかっただれかの冒険に立ち会ったり、日々のできごとに寄り添ったりして、物語に登場こそしないが、そこにいる彼女らとともに生き、友だちのような感覚でいる。

そして、本を読む前と後とでは、ものの見方や感じ方がちょっとちがう自分になっている。その変化にいちばん気づくのが、本の感想を書き留めることだろう。

そうか、わたしがこの本を読んでこころを動かされたのは、このひとのこんな行動に、こんな気持ちに共感したからだ。そして自分もそんなふうでありたいと思ったのだ。というように、書くことでちゃんと気づくことができる。

気もちという形のないものを、言葉によって定着させる。それが感想文だ。

まるで、物語のなかのひとたちに、自分が味わった感動や見知らぬ世界へといざなわれたことへの感謝を伝える手紙のように、わたしは感想文を書いていたように思う。

感想文を書くことで、本との距離は確実に縮まる。その証拠に、その本が本棚でじっとしているときも、背表紙が目に入れば、そこで起きているあれこれをはっきり思い起こすことができるようになる。

夏休みの宿題の感想文だけでなく、いつのまにかわたしは、専用のノートに、本の感想やすばらしいと思う描写を書き写すようになった。

学校を卒業してずいぶん長い時間が経った今でも、それは続いている。

文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部教育課程調査官

小倉 勝 登

■プロフィール
東京都公立小学校教諭、
東京学芸大学附属小金井小学校教諭、
東京学芸大学非常勤講師兼務を経て、
平成30年4月より現職



1 令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について

令和6年7月10日に令和4年度実施の学習指導要領実施状況調査の結果について速報版が公表された。

(1) 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 公民としての資質・能力の基礎の育成に向けて、社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決の見通しをもつ活動や社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、社会への関わり方を選択・判断し、よりよい社会を考えようとする活動などの問題解決的な学習活動の充実を図る。
- 中学校社会科への接続・発展を視野に入れて、内容の枠組みと対象を「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」「歴史と人々の生活」と整理し、社会科の特質を踏まえ、内容の改善を図る。

令和4年度学習指導要領実施状況調査については、改訂のポイントである問題解決的な学習活動の充実と内容の改善の二つの柱に基づいて作問した調査問題で実施している。

(2) 学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題

学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題については、次の4点に整理して示されている。

- 資料から問いを見いだすことは相当数の児童ができていますが、問題解決の見通しをもとうとすることに課題があると考えられる。
- 資料から情報を読み取ることは相当数の児童ができていますが、社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題があると考えられる。

- 社会に見られる課題を捉え、社会への関わり方を考えようとするに課題があると考えられる。
- 内容により基礎的な知識及び技能の定着に課題があると考えられるものや具体的な事実に基づいて社会的事象の特色や意味を理解することに課題があると考えられる。

(3) (2)の成果と課題を踏まえた改善の方向性

明らかになった成果と課題を踏まえた改善の方向性としては、次に示す3点である。

- 指導上の改善点
 - ・学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動、複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動を重視する。
 - ・社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする活動を重視する。
 - ・内容に関しては、例えば、地理的環境の学習において基礎的な知識や技能が定着する指導や、例えば、政治の学習において具体的な事実や意義などを政治の働きと結び付けて考えるようにする指導の充実を図る。

さらに整理して示すと、次の4つの学習活動が重要であると考えられる。

- ①学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動
- ②複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動
- ③学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動
- ④社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちにできることなどを考えたり、社会

への関わり方を選択・判断したりする活動を重視する、となる。

2 問題解決的な学習活動の充実に向けて

上記の4つの学習活動を重視するためには、問題解決的な学習活動を充実させる必要がある。そのためには、「資質・能力育成のプロセスを大切にすること」と「4つの活動のポイントをおさえること」である。

(1) 資質・能力育成のプロセスを大切にする

小学校社会科の目標の柱書には、資質・能力を育成する過程が示されている。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

柱書に示されている「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、小学校、中学校社会科の見方・考え方の総称であり、小学校社会科においては、「社会的事象の見方・考え方」ということになる。

次に、柱書に示されている「課題を追究したり解決したりする活動を通して」とは、教科の特質に応じた学習活動を示しており、小学校社会科において考えれば、これは、「問題解決的な学習」ということになる。つまり、小学校社会科は、資質・能力を育成するためには、「社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を通す」ことが大前提ということになる。

(2) 4つの活動のポイントをおさえること

① 子供が問題解決の見通しをもつ活動が重要

子供たちが見通しをもつとは、子供たちが社会的事象と出会い、疑問や予想をもち、学習問題(問い)をつくり、生活経験や既習を基に学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立てる、といった「問題解決の見通しをもつ」ことである。

そのためには、まず、社会的事象とどのように出合うかが重要である。その出会いが、子供たちの中に驚きや疑問を生み、主体的な問題解決の始まりとなるからである。さらに、子供たちが、「学習問題(問い)を把握する」ことや解決のために「予想をする」ことを丁寧に扱うことで、子供による問題解決の見通しにつながるのである。ここでは、例えば、資料から事実を読み取る、読み取ったことを基に考えるな

どの活動を丁寧に行ったり、子供から出された疑問などを話し合いながら整理し、学習の見通しをもてようようにしたりすることが考えられる。

② 子供が、社会的事象の特色や意味を考え説明する活動が重要

問題解決的な学習は、子供が社会的事象から問いをもち、解決の見通しを立て、資料などを活用して調べ、みんなで話し合ったり、考えたりしてまとめる(解決する)学習過程である。その過程においては、社会的事象の特色や意味について考えることが欠かせないが、さらに、考えた特色や意味を説明する活動がとても大切である。ここでは、例えば、調べて分かったことを基に考えたことをまとめて終わりにするのではなく、まとめたものを基に社会的事象の特色や意味を自分の言葉で説明するなどの活動を行うことが考えられる。また、説明する活動を行う場合は、予想と事実を区別したり、根拠や理由を問い返したりして進めるようにすることが大切である。

③ 子供が、自分の言葉(文、図表など)でまとめる活動が重要

資料等を用いて作品などにまとめたり図表などに表したり、理解したことを言語によって表現することが大切である。学習して身に付けた知識を基に、自分の言葉や図や表で、まとめる活動を大切にすることである。ここでは、例えば、学んだ重要な用語を基にまとめるように指導することが大切である。さらに、子供が自分の言葉でまとめることを丁寧に指導することが大切である。

④ 子供が、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりすることが重要

「社会への関わり方を選択・判断する」ポイントは、学習したことを基に考えることが大前提である。さらに、例えば、学習して習得した知識などの中から、自分たちに協力できることを考え、学級で意見を出し合ったり話し合ったりして、その上で、たくさん出た意見の中から自分たちが本当にできそうなことを選び出し(選択)、自分の意見や考えとして決める(判断)ことである。ここでは、例えば、単元を通して学習したことを基に課題や新たな問いを見いだすことや社会に見られる課題をしっかりと一人一人の子供が把握できるようにすること、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする際には単元で学んだことを基に根拠や理由を明確にして表現できるように指導することが大切である。

学校教育目標の達成をめざして

三重県大紀町立七保小学校 校長
田中基之



1 学校教育目標に立ち返りながら歩む

本校は、松阪牛の肥育や清流宮川などで有名な地域に所在する小規模校である。素直でやさしく、伸びようと努力する子供が育っている。学校教育目標「心やさしく 考え、動く ～自立と共生～」について、子供も教職員も覚えて言え、意識が高まっていることは強みである。今年度も6年生全員が、同目標を画用紙に毛筆で一枚一枚書き、それらを校内各所に掲示した。教職員は、子供とともに、学校教育目標に立ち返りながら、教育活動を進めている。

教職員は、学級経営方針、各種教育計画、校内研修、各担当の提案等において、学校教育目標とのつながりを明確化し、自立と共生の2観点で目標を整理している。全教育活動のベクトルが揃うことは、カリキュラム・マネジメントの最も重要な要件と考える。

校長は、その進捗状況を職員会議や校内研修会で教職員と確かめるとともに、月例の全校集会の講話では、同目標に絡めた話題を主とし、自立・共生の力が育っている姿を認めつつ、課題も提起している。

2 特別活動を重点目標の一つに位置付ける

学校教育目標につながる重点目標の一つを「子どもが創る よりよい学級・学校」とし、特別活動をその核に据えている。特別活動が、自発的・自治的な活動、また、集団や自己の課題解決となるように、教職員は子供を支援している。

例えば、児童会が決めた生活目標「校舎内では静かにする」の達成状況にやや課題が見られたときのことである。児童会本部は、月半ばの昼休みに全校集会を自主的に開き、なぜ静かに過ごすのかを改めて考

え合うとともに、数種の室内遊びの例を示し、体験し合った。その結果、月後半には目標達成できた。

また、保健委員会では、めあてを達成すると手作りのしおりがもらえる企画「はみがきカレンダー」を、もう1週間延長するかどうかで意見が分かれた。あと一息で達成できる子が何人かいたからである。同委員会で、取り組みの目的を再度確かめ、折り合いをつけて合意形成し、企画を延長した。

特別活動において、異学年交流も大事にし、自己有用感や社会性を育てている。異学年で構成する縦割り班を、児童会企画や、米作り・遠足等の学校行事、清掃活動で活用している。上級生は、下級生の思いを受け止め、よい姿を見つれたり、教えたりしている。下級生にとって、上級生の姿は憧れであり、相手意識を持ち、考えて行動する姿が育っている。

6年生は、3月の「引き継ぎ会」で、5年生に、自分の体験に基づいて、リーダーの役割や心構えを伝えている。教師の言葉でそれらを指導するよりも、伝わるものが大きく、意欲や責任感を高めている。よりよい学校を創ろうとする文化が引き継がれている。

3 教職員も自立・共生の力をつける

校長になってから、教職員が力を発揮できるように支援する「サーバント・リーダーシップ」が大事と考えてきた。校長の経験を積むにつれて、誰もが持ち場でリーダーシップを発揮できる「シェアド・リーダーシップ」も意識するようになった。私を含めた教職員自身も自立と共生の力をつける組織づくりに努めたい。

校長と教職員が同僚性をもって、子供の姿をもとに対話を重ね、学校教育目標の達成に向けて尽力しているところである。

おすすめの本

学力と評価の戦後史 学力論争・評価論争は教育の何を変えたのか



著者：古川 治
（発行元：ミネルヴァ書房）

本書は、著者が教育界に身を置いて、その経験をもとに積み上げてきた研究の集大成といえる力作である。

第1部「戦後教育における私の学びと教え」では、戦後教育における学力・評価の変遷について、著者の小中学校時代から教職に就いてのちの経験、そして大学での研究成果に基づいて語られており、楽しく読み進めることができる。

第2部「戦後の学力と学力論争」では、学力観の変遷について、戦後の学習指導要領の変遷と教育内容の変化と呼応させて語られている。特に主な学力論争が6期に分けて分かりやすく説明されている。私自身、どこからリアルタイムで体験しているかを確認しながら興味深く読み進めることができた。

『第1期(1950年前後)「基礎学力論争」→第2期(1960年代前半)「計測可能学力」「態度主義」に関する論争→第3期(1970年代前半)「学力と人格」をめぐる論争→第4期(1990年前後)「新学力観」をめぐる論争→第5期(1999年以降)「学力低下」論争→第6期(1999年以降)「コロナ禍と学力論争」』

第3部「戦後の評価改革と評価論争」では、戦後の教育評価の歴史(教育評価の改革の過程、評価論争の内容や展開過程)を考察する。『「相対評価」の導入→「観点別学習状況」の登場→「目標に準拠した評価」の全面採用、「目標に準拠した評価」と「個人内評価」の結合→「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の整理と高等学校への「観点別評価」の導入』

この学習指導要領の改訂に伴って改められた評価改革の内容は、まさしく指導要録のあゆみといえる。

2024(令和6)年12月24日。文部科学省は「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」について中央教育審議会に諮問し、次期学習指導要領の検討が始まった。

この時期に、本書を通して、戦後80年間の学力論争・評価論争について振り返ることは、次世代の学校教育を考えるにあたり意義深いことだと考える。

総 教 研 情 報

一般財団法人総合初等教育研究所主催事業のご案内
<https://www.sokyoken.or.jp>

募集

第49回「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール

- ◎応募資格 小学校児童 ＊在籍校を通じての応募に限る
- ◎応募部門 I てのひら文庫部門 「てのひら文庫」(文溪堂発行)の学年配当指定図書の感想文
II 自由図書部門 「てのひら文庫部門」以外の児童向図書の感想文
- ◎締切・発表 ●応募締切日 令和7年9月19日(金) ●表彰 令和7年12月中旬～令和8年3月上旬
●入賞発表 令和7年12月上旬 ※訪問表彰

募集

第42回道徳と特別活動の教育研究賞

- ◎応募資格 全国の小学校の学校(団体)、または教師(個人)
- ◎応募部門 I 「道徳」の部 II 「特別活動」の部
- ◎締切・発表 ●応募申請締切日 令和7年10月31日(金) ●入賞発表 令和8年2月中旬
※当日消印、メール着信有効 ●表 彰 令和8年3月7日(土)
●応募原稿締切日 令和7年12月1日(月) ※第29回教育セミナーで表彰式